

茂原市協働のまちづくり推進懇話会
(会議録)

令和5年2月15日(水) 10時00分～

茂原市役所1階102会議室

- 1 開会
- 2 令和4年度協働のまちづくり推進事業進捗状況について
- 3 意見交換
- 4 閉会

○出席委員(順不同・敬称略)

役員	区分	氏名
座長	学識経験者	関谷 昇
座長職務代理	関係諸団体の代表	西條 博光
委員	〃	松永 徳弥
委員	〃	田中 允
委員	その他市長が必要と認める者	市橋 拓道
委員	〃	石川 章子

1. 開会

【生活課 深山】

本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。定刻となりましたので只今から、茂原市協働のまちづくり推進懇話会を開催いたします。

本日の進行を務めます、生活課市民活動支援センターの深山です。よろしくお願いいたします。

まず始めに、市民部次長の宮本生活課長よりご挨拶申し上げます。

【生活課長 宮本】

—挨拶—

【生活課 深山】

ありがとうございました。

宮本次長におかれましては、所要のためここで退席させていただきます。

それでは、会議に入ります前に、資料の確認をいたします。本日の会議次第、パワーポイントの資料、懇話会委員名簿が各1部です。

それでは、ここからの進行は座長の関谷様にお願いします。

【関谷 座長】

座長の関谷です。よろしくお願いします。それでは会議次第に沿って進めていきます。

次第2の令和4年度協働のまちづくり推進事業進捗状況について、事務局より報告をお願いします。

【生活課 大本】

(資料に基づき報告)

【関谷 座長】

ただいま事務局から報告がありましたが、協働のまちづくり推進事業の3つの大きな柱について改めて説明しますと、1つ目の取組としまして、団体活動支援という柱がひとつあり、それに合わせてそうした活動団体がお互いに交流したり、個々の団体のスキルアップに取り組んでおります。

2つ目が地域まちづくり協議会、これは学区をある程度念頭に置きながらいろいろな性質といいますか立場の団体が連携している取組で、先程の活動団体とは違って、自治会や企業等含めてですが、そうした活動団体が横に連携しながら地域の課題について様々な取組を行っていて、市としてもそれを応援していく。そういったものが2つ目の取組になります。

3つ目は協働提案事業、これは市民活動団体が提案して市と連携していく事業で、テーマによってどの担当課と連携するのかそれは様々ですが、協働を団体と担当部署が連携して行っていくという協働事業が3つの大きな柱となっていて、いずれの取組もずっと進められております。

事務局から説明があった通りですけれども、進捗状況の報告を踏まえてぜひ皆様からご意見ご質問をいただければと思います。

【松永 委員】

資料に東郷地区まちづくり協議会が平成30年度設立と書いてありますが、この前回覧板で講座の案内が回ってきたのですが、これはよいと思いすぐに申し込みました。協議会が各自治会なりNPOなりボランティア団体と一緒にやっていくにも関わらず全然通知がこない。私は団体としてではなく一市民として参加しようと思い申し込みました。地域協議会の現状がどうなっているのか分からないという問題があると思います。

また、前回の懇話会で石川委員から質問があった、市民活動団体は地域どうしでは

ないのですかということですが、その時は回答しませんでした。我々市民活動団体も地域の隣部分で一緒になっていろいろな地域活動をやっております。例えば毎月クリーンキャンペーンとって団体が5つの地域において毎月ゴミ拾いを行っています。この前近所でゴミが捨てられているということで、ナルクに何とかできないかと相談があって今継続してやっています。ナルクも地域に溶け込んで隣同士で取り組んでいます。

【石川 委員】

ありがとうございます。

【関谷 座長】

まちづくり協議会について、今のところ3協議会が立ち上がって活動されているということですが、今ご質問にあったように、まだ地域に浸透していないのではないかと状況があるようですが、3協議会について現在どのような状況か事務局から簡単に説明いただければと思います。

【生活課 深山】

例年ですと、コロナ以前では東郷においてはサマーカーニバルというイベントを中心に地域活動を行っておりました。場所は東郷福祉センターを中心に活動していたのですが、ここ2・3年は思った事業ができていません。立上げも、松永委員がおっしゃるように平成30年11月ですが、ちょうどこのあとコロナが拡大していくという状況でした。ですので、東郷においては、立上げはしたがなかなか本来の活動はみんなに浸透はしていない状況だということから今回相談を受けまして、それではもう一度東郷のまちづくりについて改めて考え直してみようじゃないかということから、今回3月の講演会を開催するということでございます。

【関谷 座長】

まちづくり協議会においては、活動団体が加わるのが理想的とされておりますが、自治会、学校、PTA、青少年関係等、そういった活動をされている方々がまだまだそれぞれで活動しているという実態が多く、私はよく縦割りと申しますが、それぞれが一生懸命活動されておりますが、なかなか横につながってこない。そこをどのように結び付けていくか、いろいろな交流をしていくことができるかがまちづくり協議会の立上げの大事なポイントになります。そういった意味では、活動団体にこうした取り組みがあるということをもっと伝えていかなければいけないとは思いますが、一部に限られているのが実情です。

【松永 委員】

加えましてですね、我々ナルクも180人の会員がおりますが、全員が活動をやる

わけではなく、人が不足することがあります。各地域でみんなが一緒になって参加すればいいのになどいつも思っていました。我々が言うわけにはいかないの、せっかくこういう組織があるのですから、しっかり取り組んでいく必要があります、まちづくりに大切だと思っています。

【関谷 座長】

地域によっていろいろな実情もあると思いますが、なかなか他の活動団体には話しかけずらいとか、リーダーシップをとってしまうのはどうかなどといったところが出てくるケースもあります。立ち上がる時は、茂原だけではなく他の地域でもそうですが、なかなか一気に進んでいかないというところがあるようには見受けられます。それぞれ取り組んでいることをお互いもっと知ったり、あるいは連携したり等、単独の団体ではできないようなことができるのではないかと、いろいろな形があるので、そのような学びの場等を積み重ねながら、浸透を図っていくというのが大事だと思います。

せっかくです。まちづくり協議会について、ご質問ご意見があれば頂戴できればと思いますがいかかですか。

【田中 委員】

お二方から話があったとおり、平成30年に発足しましたが、新型コロナが発生したため、いろいろ予定があったところ、できなくて今日まで来てしまったのですが、ここにきてそろそろ活動を再開しようという中で、まずはこれをやってみようということでPRを兼ねて講演会の開催となりました。まだ市内としては3番目なのですが、これからどんどん内容を深めていきたいと思っています。

【関谷 座長】

まだまだいろいろな進め方があって、例えば個々の団体ではやりきれないようなこと、例えば草刈りですが、自治会の一斉清掃でやるような形では不可能な地域もどんどん増えてくる場合、草刈りは自治会でやることはもうやめよう、まちづくり協議会の方に取組を移して、その中でできる人たちができるときにできる形でやるように、地域ぐるみで考えてこの取組はこの団体、この単位でやっという見直しが検討されながら進められているところもあります。草刈り以外にも地域の見守り等いろいろな地域の取組がありますが、個々の取組をお互いに伝えあってどういうところできているのか、逆にできていないのか、これをうまく炙り出していくと、これだったらまちづくり協議会で力を合わせてやってみようというような動きにつながるようになりますので、ただ単に協議会で何かというよりもすでになされている活動を少しずつ見直していく、その中でできることできないことを炙り出す、あるいは新たなことをやってみよう、そのような話し合いが少しずつ盛り上がってくると協議会が力をすごく発揮するのかなと思いますので、その辺も進めていければと思います。

【松永 委員】

まちづくり協議会を立ち上げる時に、最初に誰が取り組むのか、ここがすごく曖昧に思うのですがどうでしょうか。

【関谷 委員】

自治体によって様々なケースがあり、自治会の連合会の方々がコアになっていろいろな活動団体を巻き込んでいくという進め方もあれば、逆にPTAや保護者会の若い人たちが中心になってそこから自治会の協力を仰ぎながらという立ち上げ方をするところもあり、地域によって違います。地域の中で、どういう方々がリーダーシップを発揮するのがいいのか、あるいは何かやりたいという人が出てきているならそのような人達にどんどん頑張ってもらおう等、そこはいろいろな進め方があります。

事務局から、まちづくり協議会のこれまでの経緯で何かありますか。

【生活課 深山】

経緯としましては、現在立ち上がっている3協議会については、協議会を立ち上げる前から、地域イベントという形で、自治会やPTA等、学校区を中心に活動しておりました。例えば、東郷ですと先程お話したサマーカーニバルであったり、豊田地区におきましては地区の運動会をやっていた中でまちづくりという形で、民生委員や長寿クラブ等を含めて大きな組織にしていっていったという経緯がありますので、松永委員がおっしゃるように、コアになる人がその地区にいたかと思えます。

今後、茂原市にある10地区にまちづくり協議会が立ち上がっていくとサポートする幅が広がっていくのではないかと思いますので、事務局としますと各地区にまちづくり協議会を立ち上げていくことができるのが理想だと考えております。

【松永 委員】

併せて包括支援センターとの問題の関連性はどうか考えたらよろしいですか。

【生活課 深山】

包括支援センターですが、茂原市ですと4つありまして、協議会の中に入っているところもありますので、それが取組の中で、組織の中に包括支援で高齢者の見守りをするような形でまちづくりに参加されれば一回り大きくなるのではと考えております。

【関谷 委員】

包括支援と連携するという動きはそれなりにあります。自治体によっては生活支援員がいて、その方々がコアになって協議会を誘っていくという自治体もあります。その辺をどう噛み合わせるか、市民活動部門と高齢者福祉部門がどう連携していくのかというような話にもなると思えますけど、上手く噛み合わせて地域の受け皿と福祉の

取組をもっと融合させるという可能性は大いにあると思います。

【松永 委員】

その辺がはっきりされていない。こういうのがあるとと言われても地域で分からない。誰が言い出すのでしょうか。

【関谷 座長】

これは今後の課題だと思いますが、まちづくり協議会をどのように立ち上げるのか、どのようなところに噛み合わせていくのかというのは、ある程度情報を出して行って、これとこれを噛み合わせないといけないというのを決める必要があって、そのような結びつきがあり得るんだという情報を地域に提供して、地域の中でそれをある程度揉んでいただくというのがあっていいのかなと思います。これはいろいろあって包括支援もそうですし自主防災組織もそうですし、いずれにしてもまちづくり協議会は今後の地域の受け皿になっていくと考えられ、個々の活動に加えて横断的な受け皿にしていきたいという思いは行政サイドもかなりあると思いますし、地域といろいろ連携していきたいというのもあると思いますので、その中でどう生かせるのかが重要になってくると考えます。

【松永 委員】

20何年これまでナルクとして地域の福祉のことをやってきましたが、その関連性が全然見当たらず単独でやっておりましたが、やっと現状が掴めました。

【関谷 座長】

事務局にお願いですが、どういった連携があるのか、情報を拾いながら地域に提供して、あるいは立上げ支援の部分でこのような噛み合わせ方があるんだというような情報を入れていただければ、また少し変わってくるのではと思うのでぜひお願いします。

【生活課 深山】

分かりました。ありがとうございます。

【石川 委員】

茂原かるたについて質問ですが、大会を行う予定とお話していましたが、どのような形ですのか今決まっていますか。

【生活課 深山】

令和5年度の事業計画としまして、大会を開催したいという計画を持っております。まず、今年度については作成をしていこうということから、小学校や市民から読み札・

絵札を募集しました。来年度につきましては、独自の茂原ルールを作って、小学校や自治会を含めて人が集まる場所においてかるた大会を開催したいという計画で動いております。例えば4人でやるのか8人でやるのか、その辺も変わってきますし、1人が読んで10人位でとるのか、茂原ルールをまず作ろうというところで4月以降大会に取り組んでいきたいというようにおっしゃっておりました。

【石川 委員】

ありがとうございます。

房総かるたはご存じでしょうか。私は土気在住なのですが、土気の自治会で房総かるた大会を開催しており、自治会ごとのトーナメント対決をやっていました。その時は3人一組での対戦だったのですが、それが非常に盛り上がってまして、ちょうど夏休みの終わりくらいに大会が開催されるということもあって、夏休み中もしょっちゅう自治会館に集まって子どもたちとやっていました。私の地区は少し珍しくてパパさんたちが子ども会を運営していたのですが、ママさん同士はつながりが生まれやすいと思うのですが、パパさん同士がつながることはなかなかないかと思うのですが、それで顔見知りになって今でも仲良くさせていただいたりします。そういうつながりが生み出せていたのかなと思うので、自治会ごとのトーナメント戦を検討されてもいかがかなと思います。

【生活課 深山】

貴重なご意見ありがとうございます。本日、自治会長連合会の西條会長もおりますので、その辺も含めまして、茂原の魅力を発信するという意味で幅広い層に参加していただけるように、また商工観光課と話しながらやっていきたいと思っております。

【西條 座長職務代理】

まちづくり協議会は確かにそのとおりなのですが、現在自治会の組織自体が怪しくなってきたと感じます。高齢化等もあって、加入率が以前は70%あったのが現在53%であり、この加入率では地域をまとめる運営母体ではなく、一困りごとを拾い集めて地域の面倒をみるというのも難しい状況です。まちづくりというのは茂原の基本的な考え方ではありますが、最近の状況からしまして地域性を発揮したまちづくりが必要ということだろうと思います。例えば私の本納地区ならば、まず水害をなくそうということになりますが、全体をまとめる地域別の協議会を、各地区に地域性を求めた決め方で作って、それを市がちゃんとコントロールしていったほしいと思いません。現在、まちづくり協議会は3地区しかありませんが、地区自体は実際には10地区あり、その10地区を組織改編して作って、ここでお互いに切磋琢磨して地域なりの活動をしようじゃないかということに将来的になるのかなと思います。ただ、認定市民活動団体が33団体があるということですが、残念ながらこの中で具体的に活動しているということが私は知りません。しかしながら、時折いろいろな会議に出ます

から、その中で簡単な話など情報が入るため、では本納でそういうことが可能なのか、全体として本納であり得るのか考えます。例えば本納風がありますが、7、8年前までは正月にみんなで作っていましたが今はもうやっていない。そういうこともありますから、市はどういう組織でこの協議会をまとめていくのか、そっちの方が先だと思います。その後に自治会というものがはまって一緒になってやりましょうということならわかりますが、残念ながら自治会だけの活動というのはそろそろおかしくなってしまうという状況ですから、ぜひ市としてのまちづくりを、地域別のまちづくり協議会という形で大きな組織的な必要を目論んで先を見た提案をしてほしいなと思います。

【関谷 座長】

この辺は、市としてもどのような方向性でいくのか検討していく必要があると思います。例えば私が制度設計した香取市は、23ある小学校区のうち22で協議会が数年間で立ち上がっています。3.11東日本大震災が絡んだというのもあってより加速したところもありますが、基本的な考え方というのは、この協議会をまちづくりのコアにしていく、そしてその中に自治会としての役割があったり、NPOが率先してやることや、あるいはテーマ的にも防災をどうするか、子育てをどうするか等いろいろあるわけですから、いずれにしても今後いろいろな活動団体が連携してやっていかないともうもたないという流れになってきています。その時コアに何ができるのかというのを市としても明確に位置付けながらやっていくということが、これから相当問われてくるかなと思います。だから、香取市の場合は市民に語り掛けていました。その辺りをどうするか、このままで難しいですが、市としても協議会をひとつの大きな受け皿にしなが、それをコアにしていろいろな支援をしていく、連携をしていく。そういうことをどんどん情報として地域のコアの方々に伝えていって、なるべくこれから準備会を立ち上げていただくというようなことをかなり率先してやっていたところもあったりします。方針は変わるとは思いますが、今後、核になるものだという位置付けはすごく大事だと思います。

【西條 座長職務代理】

これからの新しい形だと思いますので、ぜひお願いします。

【生活課 深山】

分かりました。

【松永 委員】

現在空き家がありますが、私の地域も住宅街なのに近所に4軒も空き家があります。この問題では、人口減の問題ともう一つ、空き家を我々みんなのコミュニティの場所としてもっと使える方法を検討していかないといけないのではと思います。人口減の問題、茂原に来てもらうという問題と地域でそれを利用するという2つの問題を考え

たらどうかと思うのですが、どうでしょうか。

【西條 座長職務代理】

茂原には空き家対策推進委員会があって私はその委員をやっております。定期的に空き家の状況、対策の状況、量的な発生等々空き家の諸問題を検討して、逐一解決を図るように進めています。例えば本納地区ですと、今までの空き家がきれいになって、更地になって、更地には別の建物ができる。あるいは公民館的な共通の場にするとか改修するとかしないとかいろいろ出てまして、検討しておりますが、その辺の状況を伝える仕組みがないからやっていることが情報として伝わっていないので、ぜひ担当課と話をしてください。かなりのことを今進行しております。

【関谷 座長】

個々の団体だけではなかなか情報としては重たすぎる深いところがありますけれど、まちづくり協議会を立ち上げているところ、あるいはこれから立上げていくにあたって、そうした地域の空き家問題はみなさん関心が高いので、そういった地域にとってどうするのかというようなことを地域住民が共有していくような情報共有のあり方を、空き家に限らず地域で共有すべきことがありますから、その辺りを各部署の情報がうまく集約されていくような形が望ましいと思いますが、いかがでしょうか。

【生活課 深山】

おっしゃるとおり空き家、空き地または空き店舗は市内各所で見受けられます。現在、空き家バンク登録を建築課、企画政策課でやっていて、そこに移住定住ということを経めながら茂原に住んでいただければというようなところで各課がやっております。この辺りは個々の課がやっていて、なかなか周知できていない部分もありますので、生活課で横の連携をとりながら広く周知できるよう、今後話をしていきたいと思っております。

【松永 委員】

それに関連して、我々は現在街中に事務所を設けていますが、交通の問題があって、高齢化で車の運転ができないなどそこまで行くのが難しくなっている現状を受けて、1つのコミュニティを作るという意味で、今ミニサロンを作ろうと一生懸命やっているのですが、各地域で自分の近所にそのようなものを作っていけたらいいのではないかと思います。ミーティングすることは自由なことで、その地域のどこでやるのかということで、しょうがないから自宅でやりなさいとしていますが、実際は空き家、空き地のようなものを利用できればいいのになと考えております。

【生活課 深山】

なかなか空き家をみなさんが集う場にするのは難しく、水道・ガス・電気のように

なライフライン等の問題もあるので、今回集会所と言われている地域のコミュニティ施設だったり青年館のようなところの整備が図られることによって近くの方たちが行けるかなと思いますので、その辺りは自治会等も含めて協力体制がとれるか確認しながら、地域の憩いの場を提供できるようにしていきたいと思います。

【市橋 委員】

私も認定市民活動団体に加入している中で、横の連携や周知の仕方は多くの団体が苦戦しているところかなと思います。周知の仕方も考えていかないと、実際に認定市民活動団体に欠番が出ているということは、周知が広がらず衰退していったことも考えられるので現実的に大きな問題だと思いますし、そういった団体の連携ができればもう少し活性化につながるのかなと思いました。

【関谷 座長】

どの自治体も、活動団体の数が増えていかないということもありますし、やめてしまうというケースもそれなりに出たりしていますし、やめるまではいかないにしてもメンバーの高齢化や後継者がなかなか見つけられないという問題もあって、今後の市民活動団体の存続といったことはなかなか厳しいところもありますが、この辺りを含めて今の状況をお願いします。

【生活課 深山】

欠番となっている2団体につきましては、1つは空き家登録の団体で茂原支部があったのですが今回支部がはずれたことによって、あと1つの団体については活動が継続できなくなったという理由から、というのがそれぞれの経緯です。西條委員からお話があったように、自治会の加入率が53%というところで衰退している中で、市民活動団体は少しずつ増えているかなといった印象を持っております。それは目的がはっきりしている方たちが集まった団体であるためと考えています。例えば最近ですと、子ども食堂だったり、今年度新たに立ち上がったモバロウマンズボイスなどは、今までコロナで規制がかかっていましたが、今後、中心になる方を囲んで活動をしていこうと、自治会の活動とは違って志が1つになった、同じような目的をもった方たちがやっております。また、5月8日から活動制限がなくなり更なる団体が活動をしていくのではないかと考えておりますので、そこに今期待をしているところです。

【関谷 座長】

この市民活動団体の情報は得られていますか。

【生活課 深山】

その辺りは、毎月開催しているまちびとカフェの中で、我々の活動が周知されていないのではないかとこのところ、今回お見せしたカレンダーで活動団体がいつどこ

で何をやっているかを周知していきたいなということから、まず模造紙に手書きで7月以降の事業計画を書いていったところなんですが、いろいろな活動団体がこういうところでこういうことをしているんだなというのを、まず団体同士が分かってきているところから今後更なる周知をということで、ウェブサイトだったりこれからもっと周知していきたいと思っておりますので期待しててください。

【松永 委員】

会員募集をしようとする、例えば市の広報に載せてくださいといったら後ろの方に高齢者が見えないような文字の大きさを掲載されます。市民活動を重視するのだったら、広報にもっと団体の活動とか出したらどうかといつも言っているのですが、なかなか難しいです。回覧方式で市民センター等に広報しますがほとんど見る人はおらず、作成した新聞を毎月置いていますけど殆ど無関心に感じます。ボランティアの会員を増やそうとしてもむずかしく、市民活動団体が必要なんだということを知ってもらうためにも広報はぜひ必要だと思っておりますが、関谷先生は良い例はありませんでしょうか。

【関谷 座長】

今、市民活動団体の情報はオープンにしていき、いろいろな方たちがその情報を見てアクセスしたり、連携を模索する時につないでいこうという流れにどんどんなっています。大事なものは、個々の市民活動団体の情報がちゃんと分かるような情報を、ホームページのところもあれば広報を作っているところもあります。プラットフォームにする。誰もがアクセスできるようなサイトをちゃんと立ち上げていき、そこに個々の活動団体の詳細を載せていきますが、その載せ方も工夫されるようになってきていて、いろいろな取組をやっているんだということを見せるのはもちろんですが、今どんどん模索されているのは、この活動団体がどういうところと連携したがつているのか、どんなことをこれからやってみたいと思っているのかというような、これからつながるような団体が考えていることをもっと載せていただくことが大事になります。もっと言ってしまえば、例えば活動団体が我々はあと100万円あったらもっとこんなことができるよなというような情報を載せていく、そうすると…

【松永 委員】

どこに載せるのですか。

【関谷 座長】

サイトになります。市民活動団体のサイトを作って、そこを見ていくといろんな情報があって、もっとこういうような条件を整えればもっとこんなことができるというようなものを見せていくと、それだったら応援しようと思付が増えていく等、次なるアクションにつながる情報の発信の仕方が問われています。一般的な団体の名前、所在、

活動内容を箇条書きで掲載しても、見た側からするとそういった活動団体があるんだで終わってしまいます。そうではなく、その活動団体がそれまでどういったことをやってきたか、どんな努力をしてきたのか、これからどんなことをやってみたいのか等といった生きた情報が掲載されていると、見る側からするとすごく面白い。そのような工夫を施した情報をぜひ発信して共有できると、例えば職員が見ると協働事業のきっかけになったりします。例えば茂原市の職員が、茂原市にどんな活動団体があってどんな活動をしているのかということあまり共有されていないと思います。しかしそういったサイトがあれば、こういうことができる団体だったらこんな連携や事業ができるといったきっかけにもつながるので、そういった意味でも情報サイトはすごく大事です。ぜひその辺りは検討いただけるといいかなと思います。

【市橋 委員】

ウェブページを見させていただいたのですが、例えば一般市民が興味をもった内容があって、その活動団体に連絡をとりたい場合の方法はどうしているのですか。

【生活課 大本】

ウェブページには連絡先までは掲載していないため、生活課に問い合わせさせていただいて、こちらから団体にそういった方がいるということで連絡をとってやりとりしていただくという形になります。

【市橋 委員】

もっと簡単になってくるといいかなと感じます。実際に興味をもった人がその団体に連絡をとりたいというのは、相当やる気のある方なので、もう少しスムーズな入り方があるといいと思います。

【関谷 座長】

市民がどんどん団体にアクセスできるようにした方がいいと思います。役所が間に入らなくても、どんどんいろいろな発信や情報を得ていき広がりができます。前から懇話会でも話題になっていることでもあり、ウェブ上で見ると若い人はいろいろな形でアクセスできるし、連絡先もいちいち市に問い合わせたら熱が冷めてしまうということもあり、すぐ問い合わせができれば自分たちが今後こういうことをやってみたいけど一緒にやってみないかというような働きかけができたりするので、ぜひ検討をお願いします。

【西條 座長職務代理】

まちづくり推進事業の中で、資料の認定市民活動団体一覧に「宇宙の会」というのがありますが、これはまちづくりの世界なのか、趣味の世界なのか、その辺がはっきりしないと個人的には思います。趣味で宇宙が好きということと一緒にやりましょ

ということがまちづくりにどんな話になるのか、やはり趣味の世界なのかまちづくりの世界の一端なのか、はっきりしていないのではないかなと思います。その辺はまちづくりとの概念の違いをはっきりしておかないと、市民の人たちにはまずいんじゃないかなと思います。

【生活課 深山】

今お話しのありました、12番の宇宙（そら）の会ですが、ネーミングにある宇宙のことではなく、視覚障がい者の精神的自立を支援する活動に取り組んでおります。今後、認定における内容の精査、もしくは活動内容を明確にした中で、もちろん活動団体として市とそぐわなければ団体としては認めないですが、活動内容をきっちり確認しながら認定していきたいと思います。

【関谷 座長】

この認定団体というのは、まちづくり、公共的な活動に関わっている団体を認定しているのですよね。認定というと、何をもって認定なのかということも含めて発信していくと、そこで少なくともここで認定されている団体はまちづくりに関わっている団体なんだと思ってもらえます。もちろんこの裾野にもっとプライベートな活動はいっぱいあると思いますし、少なくとも認定団体というのはそういう意味だということをもっと発信していったいいかもしれません。

ちなみに、これも1つの傾向としては、認定団体がどれくらい情報をオープンにしているかによって、団体の公共度をランクで表しているところもあります。いろいろな情報をオープンにしているところについては、例えば補助金なども少し優遇されたりしているところもありますので、どんな情報をどのようにオープンにしていくのかすごく大事なことです。今後検討いただければよいと思います。

【西條 座長職務代理】

担当は生活課になると思いますが、これは大変な作業だと思いますが、よろしくお願いします。

【生活課 深山】

分かりました。

では、事務局からよろしいでしょうか。先日、卒業式を行うにあたってマスクはどうか国の方で方向を定めているところですが、我々の方も3月13日以降においてはマスクをとってもいいよというお話が国から来ておりました。また、5月8日以降については活動内容の制限が緩和されていくというところから、市民活動、それと自治会も含めてコロナから少し出ていくような流れの中で、一步踏み出す形でどういうことを気をつけたらいいか、また、今後どのようになっていくのかも含めてお話を伺っていただければと思いますので、よろしくお願いします。

【関谷 座長】

だいぶ緩和の方向に向かっていることには違いないですけれども、市民活動としてもこの3年間かなりの制約があって、止まってしまったところもかなりあると思いますけど、ここにきて急速に緩和の方向がでてきているので、その辺も踏まえて、市民活動がどうあるべきなのか、どの辺を配慮すべきなのか、ぜひご意見がありましたらお願いできればと思います。

【西條 座長職務代理】

自治会長連合会としましては、茂原市の方向性が定まるまでは自粛ということで徹底しております。ですから会合も一切やっておりませんし、懇親会もやっておりません。要は顔を合わせなくなったということでやっていますが、そろそろ、今朝のニュースでもあったように緩和の方向となってくると再開していくことになりますが、今のところ方向性は決めていないので、国の言う5月云々というのがひとつのけじめかなと思ってはいるのですが、今のところは多くは自粛という方向でおりますので、この辺の判断は難しいところであります。

【関谷 座長】

例えばマスクは個人判断ということになっていますが、かなり厳しいのではないかと思います。周りの目とかいろいろありますし、それだけでもかなりトラブルが出てくるのかなというのがありますし、まして自治会活動や市民活動となると、ある程度ガイドラインがないと動きようがないというところがあると思いますが、市の方も検討されているかもしれないですが、ある程度のガイドラインが出された上で、では自分たちとしてどうやれるかといった広がりが出てくるかだと思います。

【松永 委員】

子ども遊び広場というイベントを榎町商店街でこれまで15回やってきましたが、コロナ禍で止めていまして、今年の10月に再開しようということで、市役所の市民広場で開催を予定しており、その時にマスクをどうしようかと今考えておりまして、子どもにどうさせればいいのかと迷ってはおります。10月になったらまたちょっと変わるのだろうなと思います。その場合でも我々の考えでやってもいいものなのだろうか、そういう疑問視があるのですが、いかかでしょうか。

【関谷 座長】

やはり個々で判断するのは難しいと思います。どうでしょうか、ガイドラインがあった方がいいでしょうか。

【西條 座長職務代理】

市がどうかということですよ。他県の状況をみながら、市としての発表がないと動きがとれないと思います。市の判断が我々の活動の基準だと思います。

【石川 委員】

弊社としましては、市原市にある料理教室は現在開催していませんが、子ども食堂の団体等に貸出をしているのですが、その時も開催基準が市原市の公民館の貸出基準に準ずるといように設定しているので、やはり市でそういったものがあるとひとつの基準になるので、あった方がよいと思います。

【生活課 深山】

今後、国、県から下りてきた内容を精査して近隣を含めて県内の方向が決まってきます。そうすると市としての方針が出ますので、それがガイドライン的なものになってくるということで、我々もそれを見ながら判断して、またそれを周知していきたいと思っております。

【関谷 座長】

個々の情報を整理して伝えるということと、やはりガイドラインが示されてもまだまだ不安だという方は絶対残ると思いますので、そういう意味では、例えばこれからできるイベントをやるときにはこの辺はちゃんと配慮してほしいなど、各専門家がそれなりの方策を示してくると思います。情報があればここまでやれば安心だと思ってもらえると考えますので、その辺豊かな情報があるといいかなと思います。

【生活課 深山】

ありがとうございます。それこそ先程お話した4月1・2日に桜まつりが、今まで2年間やっていなかったのですが、今回開催する予定です。あと、7月に最大のイベントといわれている七夕まつりも何とか開催の方向で進んでいますので、その辺が基準になってそれがどのような形でお示しできるかということを精査しながら市民活動団体、自治会等に周知していきたいと思っております。

【関谷 座長】

けっこう温度差によって大変厳しく見る人と大丈夫だよという人は絶対出てくるので、そういった時に一定の拠り所といいますかガイドラインがないとトラブルの元になったりするので、ガイドラインがあればあとで判断の材料となります。かなり厳しい制限をしていた時も、自治体によっては市民活動はこうすべきだという強めのガイドラインを出してこういった集会は一切認めないなどとしていて、今度少し緩んできたときに小規模だったらいいですよというような、段階的に出しているところもあります。その辺、これからの状況に見合ったものをぜひお示しいただけるとよいと思います。

今日だけに限らず、市民活動、協働のまちづくりということで今後に向けてもし何かご発言等あればお願いします。

【西條 座長職務代理】

先程お話のありました協議会の位置付けですが、市の大きなまちづくりの中の一地域ごとに担う舞台という位置付けで、一斉に考えをまとめてくれると我々も動きやすいし、その中で自治会はどう動くのか、53%には連絡はできるけどそれ以外の47%の人たちは情報が届かない可能性があるので、そういう人たちにも関係なく向こう三軒両隣でお付き合いしなさいということを進めております。会員でなくても関係なくやっておりますが、立場がはっきりできてきますので、ぜひ市の大きなスケールでやってもらえるとありがたいです。

【関谷 座長】

これまでの地域活動の見直し、検証と、まちによってはコミュニティ政策ということで、どこをコアにやっていくべきか、これまでは自治会を中心に地域に網を張って情報共有していろいろな取組をしていこうとしてきましたけれど、加入率がどんどん低下しているということと、世代によって地域の関わり方が変わってきているため、いろいろな世代に対応できるようなやり方を模索していかないと世代の分断というのが出てきてしまうということもありますから、ある程度緩やかに繋いでいけるような形というものをしっかり地区に見据えていくということをして市として問われるところではないかと思えます。私の考えではいろいろな分野や活動団体の交わりがまだまだ弱いのではないかと考えており、そこをもっと垣根を下げていろいろな情報を共有していろいろな発想ややり方を基に連携が広がっていくと、こういう状況下にあっても活動の広がりを期待できると思えます。

それでは今日の会議は以上とさせていただきます、事務局にお返しします。^

【生活課 深山】

ありがとうございました。本日はたくさんのご意見を頂戴いたしましたので、これを参考に次年度以降の取組を進めてまいりたいと思っております。

なお、懇話会委員の任期については2年となっておりますので、来年度も引き続きよろしくお願いいたします。

それでは本日の会議は、以上でお開きとさせていただきます。